

豚インフルエンザ情報 ③ (2009年4月28日14時現在)

28日、世界保健機構(WHO)はインフルエンザの広まり状況を示す尺度であるフェーズ(PHASE)を3から4に引き上げました。

フェーズ4とは、ヒトからヒトへの感染が起きていることが確認された段階で、限定的な地域で感染の広がりが見られるという状況です。まだ、世界的流行(パンデミック Pandemic)の段階ではありません。

今後、世界的流行になるか否かは、今後の情勢によります。影響のある因子としては、ウイルス側の感染力、毒性、薬剤感受性、ヒト側では人の自然免疫力、公衆衛生的措置などがあります。うまく感染が抑えこめれば、フェーズが下がることもありますし、そうでなければパンデミックになる可能性もあります。ちなみに、現時点で、日本、シンガポールでは患者発生はありません。

現時点において、市民レベルで出来ることは、

1. 患者発生のある国には行かないこと
2. うがい、手洗いの励行
3. 食料(缶詰など日持ちのするもの)など日用品の備蓄(2週間程度がめやす)

仮に、ご自身が豚インフルエンザ発生国から帰国して1週間以内に風邪のような症状が出た場合には、

1. 速やかにマスク(普通のマスクでよい)を着用し、
2. 医療機関に電話連絡して下さい。

受診の仕方は昨日発信いたしました情報②を御覧下さい。

仮に、出張などで飛行機に乗る前に症状がでた場合には、

1. 速やかにマスク(普通のマスクでよい)を着用し、
2. 現地の医療施設に御連絡ください。飛行機に乗ることは同乗者に感染を広め、世界的にウイルスをばら撒く結果になりますので、御注意下さい。

また、機内にて発症した可能性がある場合には、

1. 速やかにマスク(普通のマスクでよい)を着用し、
2. 乗務員にお伝え下さい。

シンガポールへの到着客は空港の検疫で、サーモスキャナーにより全員が体温チェックを受けるようになっています。発熱している場合、体温チェックを免れるために解熱剤などで一時的に熱を下げたいような気持ちになるかも知れませんが、決してこれはしないで下さい。

もし、本当に感染していた場合には、御自身の会社、家族、そしてコミュニティーに感染を広げることになるからです。

逆に、空港の検疫で発見されることは、ラッキーなことだとお考え下さい。ここで、見つければ、即座に、詳しい検査、手厚い治療が受けられますし、結果として、ご自身の会社、家族、コミュニティーを守ることが出来るからです。

***特殊なマスク（N95 など）について**

一般の方が、普段から特殊なマスクを着用する必要はありません。特殊なマスクは、着用しますと息苦しく、それを着用して雑踏を歩くなどの使用に耐えるものではありません。ほとんどの方は、息苦しさのため、途中で（おそらく 5-10 分程度で）マスクをはずしてしまう結果となってしまいます。

現時点では、特殊なマスクは患者さんを介護する必要性が生じた時、短時間、限定的に使うものと考えますので、この点、誤解のないようお願い申し上げます。

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実